

横須賀市自然・人文博物館付属  
馬堀自然教育園／天神島臨海自然教育園・ビジターセンター  
し ぜ ん き ょ う い く え ん

# 自然教育園だより

Vol.2 No.3

(2009年 秋号)

2009年 9月 11日 発行  
横須賀市自然・人文博物館  
046-824-3688

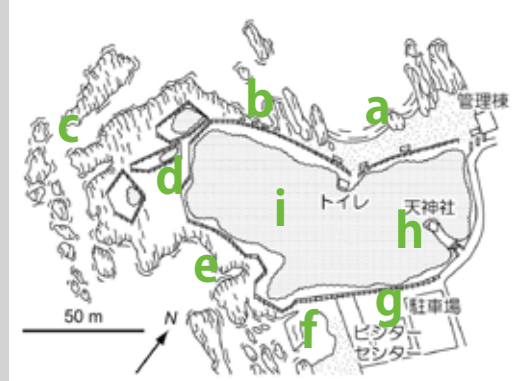
## 天神島臨海自然教育園

### ◆自然教育園での出来事 (2009年 6 - 8月) ◆

シマスズメダイの群れ



巢穴を泥で埋めるルリジガバチ↑



観察マップ：文中の a ~ h に対応。



ハマナデシコ



←ハクセキレイ



ヒメソバガラガニ

←クモガタウミウシとオレンジ色の卵



クロアナゴとそれを食べるハサミムシ

6月10日 クサフグの産卵が行なわれた (b)。笹の葉にラミーカミキリがいた。ヤマグワにキボシカミキリがいた。  
6月11日 潮だまりでクモガタウミウシが産卵した (f)(A)。海岸近くにジャノメガザミがいた (f)。イヌビワの葉にピロウドハマキがとまっていた (d)。  
6月13日 キイロスズメバチが巣を張っていたクモを襲っていた (h)。  
6月21日 磯にウメボシイソギンチャクがいた。  
6月24日 クサフグの産卵が行なわれた (b)。  
6月27日 管理棟でルリジガバチが巣作りをしていた (b)(B)。  
7月3日 ハマボウ、ハチジョウナが開花した (a)。  
7月4日 ニイニイゼミが鳴いた。ハマナデシコが咲いた (C)。  
7月9日 潮だまりでケブカガニを確認した (b)。ツルナが咲いていた (a)。ウスバキトンボが増えてきた。  
7月10日 イワガニ、クロベンケイガニが交尾していた (b)。  
7月11日 ハマオモトの上でカナヘビが休んでいた。葉の裏にはフタオビミドリトラカミキリがいた (a)。  
7月12日 笠島にカワウ約 150羽、アオサギ約 70羽、ウミネコ約 120羽がいたほか、ダイサギ、チュウサギ、コサギもいた。磯にサガミイロウミウシ、ヒメソバガラガニがいた (b)(D)。  
7月15日 ハマゴウが開花した (d)。  
7月19日 ハマオモトヨトウがハマオモトの根もと近くでさなぎになっていた (a)。羽化したてのアオバハゴロモが抜

け殻の近くにとまっていた (a)。クロアナゴが打ちあがり、夜になって多くのハサミムシが集まっていた (e)(E)。  
7月23日 ゴイサギの幼鳥がいた (i)。  
7月25日 ミンミンゼミが鳴いた。休んでいるオオセグロカモメ、クロサギを確認した (c)。  
8月2日 シオカラトンボのオスが飛んでいた (d)。  
8月4日 ハマカンゾウが開花した。  
8月6日 ヨモギにヨモギクキワタフシができていた (d)。岩場にカワセミがとまっていた (d)。管理棟のルリジガバチが羽化していた。ツクツクボウシが鳴いた。  
8月8日 夜、ハマオモトの葉にヤブキリがいた (a)。  
8月9日 オウムガイの殻を採集した (f)。  
8月15日 チュウシャクシギ、ハクセキレイがいた (c)(F)。  
8月20日 リュウモンイロウミウシが集まっていた (c)。死滅回遊魚のテンジクスズメダイ、シチセンスズメダイ、シマスズメダイの幼魚を確認した (c)。釣りの仕掛けに絡まったウミネコを保護し、針と糸をはずして放鳥した (c)。潮だまりでもシマスズメダイの群れやテンジクスズメダイのほか、ギンユゴイ、オヤビッチャを確認した (c)(G)。  
8月21日 尾を振りながら鳴くタイワンリスの姿を確認した (i)。  
8月28日 休んでいるキョウジョシギを確認した (c)。  
8月29日 推定約 2m のバショウカジキが打ち上がった (e)。

# 馬堀自然教育園

## ◆自然教育園での出来事 (2009年6-8月) ◆

シンジュサン



イモリの卵→



←トウキョウサンショウウオの幼生



観察マップ:

文中の a ~ f に対応。入口



↑葉の裏の  
ゲンジボタル

ヤブラン→



羽化直後のカブトムシ



樹液に集まる虫たち

6月5日 スダジイの根元にカンゾウタケが出ていた (a)。  
 6月6日 トウキョウサンショウウオの幼生とイモリの卵を確認した (c)(A,B)。  
 6月9日 朝、ホトトギスが鳴いていた。カワセミがオス・メスのペアと幼鳥の3羽で飛来し、幼鳥がエサ取りの練習をしていた (a)。シジュウカラの幼鳥が来ていた (a)。ハンゲショウの葉にピロウドハマキがいた (a)。  
 6月11日 シオカラトンボが飛んでいた (a)。  
 6月13日 翅がボロボロになったオオミズアオをみた (f)。アカメガシワの雄花が園路にたくさん落ちていた。ムラサキシキブとコクランが咲きだした。  
 6月14日 午後、ホトトギスが鳴いていた。  
 6月17日 オオシオカラトンボが産卵していた (a)。イロハモミジの葉にゲンジボタルが2匹とまっていた (c)(C)。ヤブレガサの花が咲いていた。  
 6月21日 ムラサキニガナ、ジャノヒゲの花が咲いていた。シオカラトンボのメスが産卵行動をしていた (a)。  
 6月26日 タシロランを25本確認。ヤブコウジの花が咲いていた。ハンゲショウの葉が白くなっていた。2-3cmのヤマアカガエルが2匹いた (c)。  
 6月27日 ナナフシモドキがいた (a)。ヤブキリが樹上で鳴いていた (c)。エノキにアカボシゴマダラの幼虫がいた (c)。  
 7月2日 上の池にシマアメンボがいた (c)。  
 7月4日 地面を掘り返したら羽化直後のカブトムシがいた (b)(D)。ニイニゼミが鳴いた。  
 7月5日 タシロランを多数確認した。種子を飛ばしているものもあった。ハゼノキのミツバチがいなくなった (e)。  
 7月9日 クヌギにカナブンが4匹集まっていた (f)。電柱にミツバチの集団がかたまっていた (16日までいた) (b)。  
 7月14日 学習棟にトウキョウヒメハンミョウがいた。ノ

コギリカミキリがいた (b)。ジャコウアゲハがいた (a)。  
 7月15日 体長約1cmのメダカが30-40匹群れていた (a)。  
 7月16日 マンリョウの花が咲き始めた。巡回中に3cmくらいのヤマアカガエルを見た。ヒグラシが鳴いていた。  
 7月22日 アオバハゴロモの成虫が多くなってきた。枝にキボシカミキリがいた (a)。ミンミンゼミが鳴いていた。  
 7月23日 朝、シラカシにアオゲラが来ていた。  
 7月29日 クヌギにカナブン、クロカナブン、コクワガタ、ノコギリクワガタなどがいた (f)(E)。  
 7月30日 クヌギにカブトムシ、カナブン、サトキマダラヒカゲがいた (f)。夕方、カワセミが飛来 (a)。  
 8月4日 夕方、ヤブヤンマがいた (c)。  
 8月5日 サトキマダラヒカゲが7匹飛んでいた。  
 8月7日 オオシマザクラとケヤキにヒメクロイラガの幼虫が多数発生していた (a)。シンジュサンがいた (e)(F)。  
 8月8日 オニヤンマを見た (c,e)。カワラヒワが池で水浴びをしていた (a)。  
 8月12日 タマゴタケが3本生えていた (d)。ハクビシンのつがいが歩いていた (d)。  
 8月13日 ツクツクボウシが鳴いていた。  
 8月14日 セグロアシナガバチの巣を撤去した (a)。トラップにアオオサムシがかかった (e)。  
 8月25日 カラスウリのつぼみ・咲き終わった花・果実が同時に見られた。  
 8月27日 トラップに若いニホントカゲがかかった (e)。ヤブランが咲いていた (e)(G)。オオスズメバチがコナラの樹液にいた (f)。ヒメクロイラガがさなぎになった (a)。  
 8月29日 キイロスズメバチが水たまりで給水していた (b)。イチモンジセセリがいた (a)。サワガニが孵化間近の卵を抱いていた (a)。夜間調査でアオマツムシをみた (b)。

## ◆博物館行事レポート◆

### 博物館教室「地層を調べよう」(第3回) (6月13日・参加者16名)

博物館教室「地層を調べよう～地質調査の基礎～」が6月13日、天神島臨海自然教育園で開催されました。天神島の地層には縞模様が見られ、クリノメーターを用いて地層の走向傾斜の測り方を練習するのに適しています。走向とは地層の水平方向への伸びの方向で、傾斜は地層の水平面からの傾きを表します。初めは慣れないクリノメーターに戸惑う参加者もいましたが、1時間30分間の実習の間に、多くの参加者が地層の走向と傾斜を測定できるようになりました。その他にも歩いて水平距離を測定する「歩測」の学習や、天神島の地層に見られる火山豆石や断層、インジェクションなどを観察しました。(柴田記)



地層を調べる  
参加者

### 天神島めぐり「潮溜まりの生き物」 (6月21日・参加者10名)

「天神島めぐり」は、天神島の季節の自然を観察する行事で、来園者が気軽に参加できるように当日受け付けで行なっています。

この日は干潮の磯にできる海水の水たまり「潮溜まり」の中の生物を観察しました。一生のほとんどを潮溜まりやその周辺で過ごしている、イソスジエビやホンヤドカリ、ヒライソガニ、オウギガニ、アオウミウシ、シロウミウシ、アゴハゼなど常連ともいえる種



潮溜まりの  
ようす

類に加え、幼魚のときにだけ姿をみせるボラやキヌバリなども観察され、潮だまりに集約された自然を楽しみました。(萩原記)



シロウミウシ



オウギガニ

### 自然観察会「ホタルの観察Ⅰ」

(6月27日・参加者52名)

翌28日と2回、馬堀自然教育園で毎年行っているホタルの観察会です。まず、施設の説明を聞いて、明るいうちに水辺の園路を歩きました。その後、ホタルの生物学的な話や水辺環境の保全についてのお話を、それらに長く携わってきた大場信義研究員から聞きました。お話が終って、まだ明るさが残る水辺に移動し、目を慣らしながら待ちました。

ゲンジボタルは時期が遅く、数個体が光るのみでしたが、ヘイケボタルはピークを迎え、数十個体が水路の脇や枝先で光っていました。気がつく、暗闇の中で声をひそめて光を追っていた、静かな時間でした。(内船記)



学習棟での講義  
の様子

### 夏休み企画「スノーケリングによる海の生き物観察会」 (7月26日、8月1日・参加者22名)

この行事はマスク(水中めがね)、ス

ノーケル(シュノーケル)、フィン(足ひれ)を使った海中の自然観察法を学んで実践するとともに、普段公開されていない保護水域(文化財)の天神島・笠島周辺の海の自然を一般に公開するという目的で、毎年この時期に開催されています。

参加者は7月26日に基礎知識の講座を受講後、8月1日の実習にのぞみました。実習当日はやや濁りがあったものの海況はおだやかで、5組の班に分かれた参加者はそれぞれのインストラクターの指導のもと、保護された自然の中の多種多様な生物の観察をしました。(萩原記)



スノーケリング

### 夏休み企画「夜の昆虫しらべ」

(8月8日・参加者23名)

天神島で昆虫をテーマにした夜の観察会を初めて開催しました。これは、2008年度から行っている天神島自然教育園の昆虫調査の一環として、さまざまな昆虫が夜も生き生きと活動するさまや、昆虫の生息調査を体験してもらうことを目的としました。

観察会の目玉は、ライトトラップ(光で昆虫をおびき寄せせるしかけ)に集まる虫の観察と、砂浜の肉食昆虫ヒョウタンゴムシです。

明るいうちに一度歩いた時には見られなかった虫たちが、飛んできたり、砂の中からはい出てきたりして、あちこちで発見の音が上がりました。ハマオモトを食べるハマオモトヨトウも、明かりに飛んできました。(内船記)



ライトトラップにやってきた  
ハマオモトヨトウ

## ◆自然教育園イベント紹介◆

### — 自然観察会 —

#### 1. 森の散歩と昆虫クラフト

秋の馬堀自然教育園を歩きましょう。地面に落ちたドングリや枝・葉をひろって、昆虫の形に似せて工作をします。2009年10/4(日)10:00-15:00。馬堀自然教育園。対象は小学生以上20名(ただし、小学生は保護者同伴のこと)。野外保険料1人50円。締切:9/20(日)。

### — 天神島めぐり —

対象は小学生以上(小学生は保護者同伴のこと)。先着20名(事前申込不要)。野外保険料50円。

#### 1. 天神島の地層

天神島や笠島の地層は、およそ500万年前に海底で堆積した三浦層群からできています。この観察会では、天神島の地層に見られる火山豆石や断層、堆積構造などを観察します。2009年9/20(日)10:30~12:00。天

神島ビジターセンター集合。

#### 2. 海岸植物 一秋一

ハチジョウナやハマグルマが咲き終わるころハママツナやホソバナハマアカザは紅葉し、トベラやテリハノイバラなどは鮮やかな果実や種子をつけます。季節の変わり目の海岸植物の様々な表情を観察します。2009年10/18(日)10:30~12:00。天神島ビジターセンター集合。

### — 天神島ミニ企画展示 —

天神島ビジターセンター1階の展示ケースにて展示。

#### 1. ビーチコーミングの楽しみ方

海で漂着物を観察することは、海の自然や人の関わりなどについて知るきっかけになります。天神島における漂着物や、漂着物の楽しみ方をご紹介します。2010年3/28(日)まで。

## ◆自然教育園ガイド◆ 「秋の海を見てみよう」

夏休みも終わり9月に入ると、一般的に海の季節は終わったと思われがちです。しかし、実は違うのです。

7月頃から上がりはじめる海水温は、だいたい10月頃まで温かく安定しています。5月くらいから気温が上がり、8月頃まで暑い日が続く陸上に比べると、海の中は約2ヶ月も季節が遅れていることとなります。

また、海流や台風などの影響で、魚類などが南方から流れてくるため、チョウチョウウオやスズメダイの仲間などカラフルな魚が増え、海の中が最もにぎやかになるのも、8月中旬頃か

ら10月頃にかけてです。つまり、秋になってもなお「海の季節」はピークを迎えているのです。

ところが、秋になると、風は冷たくなっていき、刺されると痛いアンドンクラゲが増えてくるため、水の中に入るのが辛く感じる季節になってきま

す。そんな時にお勧めなのが、箱めがねと長靴です。慣れれば濡れずに海の中を観察することができます。箱めがねがなければ、透明なプラスチック製の飼育ケースでも代用が可能です。

暑さを気にせず活動できるこの季節、箱めがねで海の中の観察に挑戦してみたいはいかがでしょうか？



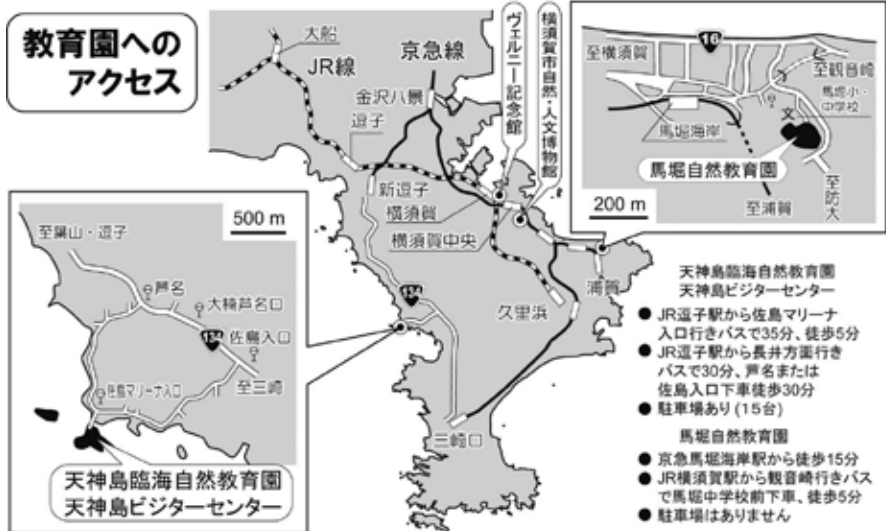
テングクスズメダイ



チョウチョウウオ

## ◆横須賀市自然・人文博物館 付属自然教育園◆

### 教育園へのアクセス



### 馬堀自然教育園

〒239-0802  
横須賀市馬堀町4-10-3  
TEL 046-841-5727

### 天神島臨海自然教育園 (ビジターセンター)

〒240-0103  
横須賀市佐島3-7-3  
TEL 046-856-0717

### 博物館本館

〒238-0016 横須賀市深田台95  
TEL 046-824-3688  
FAX 046-824-3658

休館・休園日 月曜日・年末年始  
(7月20日開館園・7月21日休館園)  
開館・開園時間 9:00-17:00  
(自然教育園 10~3月は16:30まで)

博物館ホームページ

<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>

## ◆自然教育園をご利用の際の注意◆

- ①動植物の採集はできません。
- ②ペットを連れての入園・レジャー用品の持ち込みはご遠慮ください。